

令和6年度（2024年度）第3回宝塚市男女共同参画推進審議会 会議概要

1 日 時 令和7年（2025年）3月13日（木） 午後3時～4時15分

2 場 所 宝塚市役所 2A会議室（zoom会議）

3 出席者

（1）出席委員 委員10名中7名出席

大東委員 澤田委員 塩川委員 中村委員 西中委員

開本委員 正木委員

（2）事務局

中出部長、吉岡次長、山下課長、齋藤係長

（3）その他

指定管理者 山田所長

4 全体進行

- ・会議の成立について（委員の過半数が出席）
- ・傍聴者について（傍聴希望者なし）

5 審議事項等

（1）第3次宝塚市男女共同参画プラン策定に係る

男女共同参画に関する市民意識調査の進捗報告について

（2）その他

6 主な意見等

（1）第3次宝塚市男女共同参画プラン策定に係る

男女共同参画に関する市民意識調査の進捗報告について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

会長 p.9の前回調査のグラフ表記について、前回調査では進学、就職、法律・制度の設問があったが、今回調査は設けていないため、前回調査の結果のみ記載している。このグラフをどうするか意見はあるか。

委員 今回の調査で問わなかったものは、比較できないので残さなくてもいい。法律・制度については継続調査を行ったほうがよかったと思う。

委員 次のプランに反映するのであれば残せばいい。比較しないなら残さなくていい。

事務局 では、この部分については省かせていただく。

委員 p.54の問16相談窓口の認知度について、次回の調査では「すべての窓口を知らない」という項目が必要だ。調査対象年齢を「16歳から」を「18歳から」に変更した理由について、説明があるのではないか

会長 年齢のところで、「10代」と表すと明確にならない。18歳、19歳と

して、調査対象を 18 歳からとしたことについて理由を書いたほうがよい。

事務局 加筆させていただく。

委員 p.11 各項目の男女の地位の平等感の表が他とスタイルが違う。ねらいがあるならいいが、わかりにくい。P54 問 16 相談窓口の認知度で、「兵庫県男女共同参画センター・イーブン男性のための電話相談」の認知度が低い。兵庫県男女共同参画センターにもこの結果を共有してほしい。総括の中で、50代60代70代で8割を占めていると注記しておいたほうがよい。読み手にとって誤解がないと思う。前回の年齢構成も転記してもよいのではないか。

事務局 p.11 の表については、視覚的に見てボリュームゾーンがわかるようにしている。他のグラフと差があるという意見もいただいたがこのままとしたい。兵庫県男女共同参画センター・イーブンの男性相談の認知度が低かったことについては、共有させていただきたい。前回の年齢構成については確認し追記したい。

会長 前回の調査と比較するならわかりやすくしてほしい。

委員 なぜ、前回の調査では 16 歳から対象にしていたが、10 年後の調査で対象年齢を 16 歳からとしなかったのか。10 代の回答を大事にしなかったのか。

事務局 若年層である中学生、高校生に対しては、他課の市民意識調査で 10 代を対象に男女共同参画に関する設問を設けたため対象を 18 歳からとした。

委員 調査の対象から 16 歳 17 歳を外したことについて、理由を付記してほしい。

事務局 検討させていただく。

委員 この報告書について調査結果を記したほうがいい。外部に公開することを踏まえて、意見をさせていただくという認識でよいか。

事務局 そう考えていただいてよい。

委員 p.11 の表が目立つので工夫したほうがいい。

会長 中央が平等となっていてわかりやすいが、他のグラフと違うので検討してほしい。

事務局 掲載も含めて検討する。

委員 p.56 認知度の表は回答の多かった無回答を濃い網掛けで表しているが、強調しなくていいのではないか。認知度の高かった部分に薄い網掛けをつけてはどうか。

事務局 検討させていただく。

委員 市民意識調査の概要版は作成するのか。結果を見てどういう施策に反映するのか。データをどう活用するのか。

事務局 概要版の作成は考えていない。この調査結果を参考に、来年度第 3 次男女共同参画プランを策定する。プランの大きな柱が、男女共同参

画社会基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）になる。例えば、DVについてはデートDV についての結果を、女性活躍推進法についてはワークライフバランスの調査結果を参考にしたい。

委員 総括の部分が一番前に持ってきて、概要としてはどうか。
事務局 修正させていただく。

委員 回答結果が非常に年齢の高い方のものとなっているので、表記してもらえばと思う。誤解しないようにしてほしい。

委員 10代の調査について、心残りがある。次の10年後どのような男女共同参画社会になっているかをめざすための調査だが、10年後に20歳になる世代の視点が入っていないのが残念だ。「10年後どうなるか」という考えをもって施策に取り組んでほしい。

事務局 10代が答えにくい設問もあった。若年層である中学生、高校生に対しては、学校などにも協力してもらって実施した「たからっこ「育み」プラン」策定に伴う市民意識調査を行った。

会長 みなさん同じことを思っていると思う。10代の人へのアンケートはNPO法人などでその組織に入っている人を対象にしたものはある。以前、市が大学生と協働して啓発グッズを作成した。先進的な取り組みだった。教育委員会と連携して調査をすることなど先進的な取り組みを期待したい。

委員 性別を無回答と答えた人のグラフがとても目立つ。

事務局 削除を検討したい。

委員 この調査をもとに原案が出されるので、回答を分析する上で気になる点がある。

p.30 問5「男は仕事、女は家庭」という考え方について、反対の人と賛成の人の傾向を見たほうがいい。賛成の人がp.36 問6「どこで学んだり教えられましたか」で、どこの影響が強いのか、（反対の意見の人も同様）それをもって、どういう施策をするのかという考え方ができる。

p.59 問18「男性が家事、育児、介護に主体的に参画することは望ましいか」で、望ましいと答えた人が多かった。その結果と、「男は仕事、女は家庭」という考え方は相反する。「男は仕事、女は家庭」に賛成する人は、望ましいと回答するのか、どういう結果だったのかという点も施策に関わる。

p.36 問7 ジェンダー問題等がどのようなものなのか学んだり、教えられたりしたことがありますか」について、年齢が上がるほど学んだことがない。また、男女共同参画センターを利用している人は高齢の人が多く、高齢者が二極化している。どうアプローチするかだと思う。

p.41 問 10「男女共同参画センターで、利用したものは何か」で「利用したことはない」と答えた人たちは、「男は仕事、女は家庭」の間で賛成なのか、反対なのかといった傾向が見たい。

そういった分析を、第3次男女共同参画プラン原案を作成する前にやっていただくと、どの対象にどうしたらいいか見えてくる設問がある。ぜひ、分析してほしい。

事務局 検討させていただく。

会長 性別の設問に無回答の方は1人なので、図には掲載せず「無回答1名あり」と記入してはどうか。

<事務連絡 任期满了のお礼>

会長 これを持って、令和6年度第3回宝塚市男女共同参画推進審議会を終了とする。